

2 3	宮崎	キク	トマト黄化えそウイルス
2 3	埼玉	観賞用トウガラシ	トマト黄化えそウイルス
2 7	宮城	トマト	トマト黄化えそウイルス
7 / 0 1	鹿児島	サトウキビ	クロマルコガネ
0 8	徳島	トマト	トマト黄化えそウイルス
8 / 0 1	埼玉	うり類	立枯病

新病害虫情報

新病害虫情報

クロマルコガネ

1996年10月中旬に、鹿児島県大島郡知名町田皆（沖永良部島）の夏植えサトウキビ（1996年9月挿苗）で、甲虫類の成虫が地下部茎を食害しているのが認められた。台湾総督府糖業試験所特別報告第二号（甘藷の害虫虫並びに有害動物に関する調査研究）によると、当該虫の形態および加害状況はクロマルコガネと類似しており、竹村薫氏に同定を依頼したところ、クロマルコガネ（*Alissonotum pauper*）と確認された。

同年11月に現地調査を行ったところ、発生が確認された2圃場は、いずれも夏植え新植圃場であった。被害を受けた発芽茎は、地下部の基部が食害されており、地上部茎葉は萎凋あるいは枯死し、一部では蔗苗の節間部の食害も見られた。また、同一圃場内ではサトウキビが長くあった場所で被害が大きく、前作の影響が明らかであった。

本種は台湾、中国、インドシナ半島、フィリピンでの記録があり、国内での確認事例は、これまで鹿児島県の宝島のみである。形態、生態については、台湾での報告によると以下のとおりである。成虫は体長12～18mmで全体に淡黒色で光沢があり、前胸背の上面には微細な点刻がある。また、翅鞘上には深く明らかな点刻を有する会合線の側線と強い点刻を有する8条の縦線がある。3月下旬～4月上旬に羽化するが、羽化後はそのまま蛹室内にとどまり、羽化後の大雨の後に蛹室を出て活動を開始する。主に土中で生活し、寿命は平均184日と長い。交尾時期は7月以後で、産卵は羽化後150～160日ごろから開始し、9～10月ごろに最も多く産卵する。産卵数は平均52粒である。卵は乳白色で産下時は長だ円形であるが、しだいに直径2.5～3mmの球形となる。卵期間は約15日。ふ化直後の幼虫は体長6～12mmで、産卵場所付近の腐植質の土壌を食するが、2齢以降サトウキビ等の根などを食害する。3齢（体長27～35mm）を経過した後、2月中旬～3月下旬に根域付近で蛹室を作り蛹化する。蛹は体長17～22mm、淡黄褐色、紡錘形で、蛹期間は15～20日である。幼虫（2齢期以降）、成虫ともサトウキビの根や地下部を加害するため、新植圃場では不発芽の原因、あるいは発芽茎を衰弱、枯死させる。本種の寄主植物はサトウキビのほかススキやチガヤ等である。

その後、沖永良部島では被害は確認されていないが、発生が確認された知名町では、1997年5月にアオドウガネ捕虫用の蛍光灯トラップで、本種成虫が捕獲されており、発生量は少ないものの、定着しているものと思われる。今後、奄美群島の他の島における分布ならびに発生生態について、調査していく必要がある。

（鹿児島県農業試験場大島支場 山口卓宏）